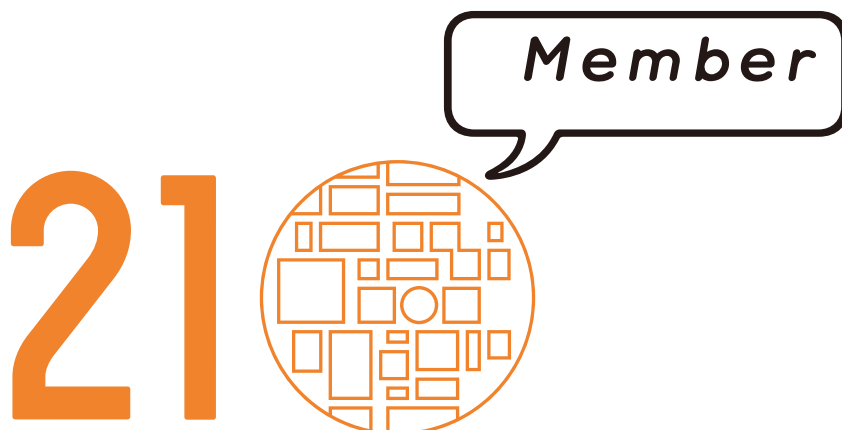


開館5周年記念事業

金沢21世紀美術館友の会ロゴマーク デザインコンペティション

## 友の会ロゴマーク決定！



### 『声』が聴こえてくるロゴマーク

開館5周年記念事業「金沢21世紀美術館友の会ロゴマークデザインコンペティション」の最優秀賞に輝いたのは25歳で東京都在住、岩松亮太さんの作品です。審査委員の全員一致で選出されました。吹き出しの中に『声』を感じられるというユニークさ。愛嬌のある呼びかけが受け手に伝わる親しみやすさ。フレキシブルで自由な遊び心。このような点が「金沢21世紀美術館友の会」のイメージを象徴するのにふさわしいと高く評価されました。

新年度より会員証、ニューズレター、ちらし、ステーションナリー、ウェブなど様々な場面で友の会の象徴として使用されます。今後、友の会とともに成長し、このロゴマークを眼にした人が友の会のイメージを描けるように、そして永く親しまれる存在となっていくことをスタッフ一同願っています。

### 最優秀賞授賞式を開催しました

受賞者の岩松亮太さんを当美術館にお迎えして、授賞式を行いました。審査委員SANAAを代表して西沢立衛氏も来館され、友の会会員の皆さん、来館者、美術館スタッフ、秋元雄史館長と共に新しいロゴマークの誕生を祝福。グラフィックデザイナー佐藤卓氏からもお祝いのメッセージが届きました。

日時:2010年3月20日(土)11:30~11:45 場所:金沢21世紀美術館 本多通り口(東口)エントランス

ゲスト:岩松亮太氏(最優秀賞受賞者・東京在住)、西沢立衛氏(建築家・金沢21世紀美術館設計)

出席:秋元雄史(金沢21世紀美術館館長) 賞:5万円+副賞

#### 金沢21世紀美術館友の会について

美術館を好きな方はもちろん、現代美術に興味がある方、美術館の最新情報をいち早く知りたい方などいろいろな方に楽しんでいただく美術館コミュニティです。会員になると金沢21世紀美術館の特別展やコレクション展を何度でも無料で楽しめるほか、会員限定のニューズレターのお届け、友の会スペシャルプログラムへの参加、シアター21で行われる美術館主催公演チケットの10%割引購入などの豊富な特典があります。ポイントカードも発行しており、集めたポイント数に応じて展覧会図録やミュージアムショップでの割引券などと交換できます。会員数は2007年3月末で572人、2008年3月末で1,200人、2009年3月末で2,286人、そして2010年2月末現在、全国で約2,300人に推移しています。

友の会HP <http://www.kanazawa21.jp/tomonokai/>

★ 貴媒体にて広く周知・告知いただきますようお願い申し上げます。

本資料に関する  
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当: 黒田 友の会担当: 中谷  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
<http://www.kanazawa21.jp>  
E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)



開館5周年記念事業

金沢21世紀美術館友の会ロゴマーク デザインコンペティション

## 最優秀賞受賞者 岩松亮太さん



岩松亮太（25歳・東京都在住）

職業:デザイナー(多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業)

ホームページ: <http://common.qee.jp/index.html>

### 受賞のコメント

受賞のご連絡をいただいた時、震えていました。とても嬉しいです。それから授賞式のことなどを考えてしまい、まっかっかになっている次第でございます。私が、美大に行ったことや、デザインの仕事をしているのは「誰かに誉めてほしい」という甘えた気持ちのせいでもあります。今回、幸運なことにこのような賞を頂けたので、何人かの方に誉めて頂けました。おかげさまでこれからも頑張れます。今後、このロゴマークが活躍いたしまして、友の会の会員数がぐんと増えてくれればいいなと心から思っております。ありがとうございました。

### 作品について

友達のグループやクラスでも、なぜかやたらに話しかけられるような、そうして皆に好かれているような、そんなイメージを表現できないかという思いから、「呼ばれるロゴ」「声に出すロゴ」ということを考えました。その表現のための1つが「吹き出し」というアイデアです。「声に出す」を視覚的に表現するのに一番伝わりやすいですし、また形のポップさも親しみやすさを増幅して良いなと思いました。美術館のシンボルマークと友の会のロゴマークの位置関係は一定ではありません。それは、汎用性の面での利点もあるのですが、展覧会によって毎回表情を変える美術館のように、様々なキャラクターが生まれる可能性を残したロゴになればといった思いもあります。

## 審査委員からのコメント

佐藤卓（グラフィックデザイナー）

### 声のロゴマーク

「金沢21世紀美術館友の会」のロゴマークデザインの応募に対して、私が当初予想していた以上に、大変ユニークなアイデアがいくつも集まった。第1次選考で選ばれたものは6つ。その中で最終的に選ばれたデザインは、「member」を吹き出しの中に入れるというもの。これは実に金沢21世紀美術館らしいロゴマークで、既存の概念に収まらない自由な発想である。つまり、吹き出しの中は「音」なので、これは「呼びかけ」であり、また、吹き出しなのでいろいろなところに動かすこともできる。子供から大人まで、様々な声が聞こえてきそうでとても楽しい。日本中、民主主義をはき違えた公共事業や公共施設のマークの公募が大流行りで、それにより稚拙なロゴやキャラクターが無数に生まれている中、今回のロゴマークはとてつもなく質が高いものに決定されたと思う。いいロゴマークなので、今後永い間使用され続けてほしい。

妹島和世＋西沢立衛／SANAA（建築家）

楽しく、貴重な体験をさせて頂きました。ひとつだけに絞っていく審査はたいへん難しかったです。最終的には素晴らしい案が選ばれて、本当に良かったと思います。一等に選ばれた案は状況に応じて形を変えていけるというアイデアで、ロゴとして非常にユニークと思いました。おめでとうございます。

秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)

### 友の会ロゴマーク決定！

うれしいことととても多くの応募をいただきました。皆様に心よりお礼を申し上げます。審査委員の皆さんも思わず唸るほどの作品が多くあり、とてもエキサイティングな審査でした。友の会メンバーによる人気投票後、最終審査では25歳のグラフィックデザイナー岩松亮太さんが受賞。審査委員一同が気に入ったロゴマークでした。「メンバー！」と声が聞こえてきそうで音が表現されているよう、また自由に吹き出しの位置や形が変化するので動きやリズムを感じるといったところが人気でした。友の会がますます楽しいところになりそうと予感させる明るく若々しいデザインです。他にも最終審査に残った作品はどれも優れたデザインでした。本当に皆さんご応募ありがとうございました。

開館5周年記念事業

金沢21世紀美術館友の会ロゴマーク デザインコンペティション

## 『友の会ロゴマーク デザインコンペティション』とは

「金沢21世紀美術館と共にある友の会」をテーマに友の会ロゴマークを公募するプロジェクト。開館5周年を節目とし、更なる美術館の発展とより皆様に愛される会となることを目指し、「金沢21世紀美術館友の会」を象徴する新しいロゴマークを全国から募集しました。審査委員による審査や友の会会員による人気投票を経て最優秀賞に選ばれた作品を『友の会ロゴマーク』として策定。こうして新たに誕生した『友の会ロゴマーク』は、友の会の会員証、ニュースレター、チラシなど様々な場面で使用され“友の会＝美術館ファンクラブ”の象徴として親しまれる存在となります。

※ 募集内容詳細はウェブサイトをご参照ください。 <http://www.kanazawa21.jp/tomonokai/>

## 全国・海外から605点の応募作品

2009年10月から募集を開始し1月8日に応募を締め切った結果、全国・海外から605作品が集まりました。応募者の詳細は次の通りです。

- ▶ 応募人数 / 369名 (一人で複数作品を提出している場合あり)    ▶ 応募作品数 / 605点    ▶ 男女比 / 男性: 271名 (73%)、女性: 98名 (27%)
- ▶ 年齢別 / 20代: 150名 (40%)、30代: 99名 (26%)、40代: 45名 (12%)、50代: 36名 (9%) ほか。  
(応募者平均年齢: 34.4歳、最年少: 16歳、最高齢: 84歳)
- ▶ 職業 / デザイナー: 123名 (33%)、会社員: 90名 (26%)、学生: 61名 (16%)  
(ほか、教員、自営業、フリーランス、農業、設計士、主婦など)
- ▶ 居住地域 / 東京: 98名 (26%)、石川: 52名 (14%)、愛知: 34名 (9%)、大阪: 28名 (7%)、神奈川: 21名 (5%)  
ほか、富山、福井、北海道、沖縄など全国各地より。(海外からは中国、イギリス、オランダ、ドイツより各1名)

## 審査の経緯

2010年1月25日 一次審査にて6作品を選出

1月29日～2月15日 友の会会員限定人気投票 \*投票結果は最終審査に反映されますが投票多数のものが選出されるとは限りません

3月1日 最終審査にて最優秀作品選出

3月15日 最優秀作品発表

## 審査委員の顔ぶれ



佐藤卓  
SATOH TAKU

グラフィックデザイナー

「ロケットキシリトールガム」「明治おいしい牛乳」などの商品開発及びブランディング、金沢21世紀美術館や国立科学博物館などのVIデザイン、企業のCIを手がけるほか、NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」の企画メンバー及びアートディレクター、21\_21 DESIGN SIGHTのディレクターを務めるなど、多岐にわたって活動。



妹島和世 + 西沢立衛 /  
SANAA (建築家)

妹島 和世 SEJIMA KAZUYO

1956年 茨城県生まれ  
1981年 日本女子大学大学院修了  
伊東豊雄建築設計事務所入所  
1987年 妹島和世建築設計事務所設立  
1995年 西沢立衛とSANAA設立  
現在 慶応義塾大学教授

西沢立衛 NISHIZAWA RYUE

1966年 神奈川県生まれ  
1990年 横浜国立大学大学院修了  
妹島和世建築設計事務所入所  
1995年 妹島和世とSANAA設立  
1997年 西沢立衛建築設計事務所設立  
現在 横浜国立大学大学院准教授



秋元雄史 AKIMOTO YUJI

金沢21世紀美術館館長

1955年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒業。91年から2004年6月まで、(株)ベネッセコーポレーションに勤務。美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島(旧・直島コンテンポラリーアートミュージアム)の企画、運営に携わる。ベネッセアートサイト直島では、97年から2002年まで直島・家プロジェクト(第一期)を担当。主な展覧会は、「直島スタンダード」展、「直島スタンダード2」展など、街中の民家、空家、路上など直島全体を会場とした屋外型美術展の開催。

photo: CHISATO HIKITA

1992年～2004年までベネッセアートサイト直島、チーフキュレーター。2004年～2006年12月まで地中美術館館長/(財)直島福武美術館財団常務理事、ベネッセアートサイト直島・アーティストティックディレクター。  
2007年より現職。